
料理部部長と渡瀬くん

碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

料理部部長と渡瀬くん

【Nコード】

N95270

【作者名】

碧

【あらすじ】

料理部部長である私から同級生である渡瀬くんはいつも食べ物を奪っていく……（涙）

これは搾取する側される側の 日常のひとこま。

（間違ってもシリアスではありません）

神様・・・贅沢はいけません。どうか、どうか！！憐れな子羊に平和で心安らかなる日々をください！

「よお！料理部部长」 「ヒィ~~~~~！！！！！！！」
朝の教室に私の悲鳴が響き渡り一瞬、教室中の視線が恐怖に固まる私とその私の頭を笑顔でわしづかみにしている男子生徒に集中する。

だ、誰か助けて！

目で訴えた救難信号は逸らされかわされ頭を振られと事ごとく拒否された。

皆、酷いです！見捨てないでください！

「オイコラ。俺を前にして考える事とはいいい度胸だな~~~~」
お前いつからそんなに偉くなった？と耳元で脅され私の目は決壊寸前ですよ！

「まったく。お前は本当に可愛いなあ~~~~」

「にやあア！！イタツ！頭、力入れすぎ・・・イタタタタ！！

！！！！」

わしづかみにされた頭から割れるような痛みがあ！「痛い！痛い！やめてください~~~~~！！」

「やめてほしかったらホレ。」

にこやかに差し出された魔王の手に涙目で鞆に入れておいたたいりょうクッキー入りの特大袋を供物として渡した。その途端に頭の痛みは無くなり視線の先にはうれしそうクッキーを食べる渡瀬くん。

「うん！旨い！いや〜料理部部长はさすがの腕前だな」

褒められてもうれしくない。しかもそのクッキーは半分以上渡瀬くんに脅されて作ったようなものだし。

恨みがましく睨んだら笑顔で頬を引っ張られた。

うえ~~~~ん！

我が校の料理部唯一の部員兼部長である私と食べ物に釣られてチヨツカイをだし続ける渡瀬くん。

入学して半年。私の悲鳴が響かない日はない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9527o/>

料理部部长と渡瀬くん

2011年1月16日09時38分発行